

講演会 NPO 法人群馬県認知症ケア専門士会 会長 福島富和

認知症ケアで「地域での生活を支える」為には、どのような視点や知識が大事となるのか？
そんなあなたにおすすめしたい講演です。

日時：平成29年11月19日（日曜日）
12:50～16:30（受付開始12:00～）
会場：前橋市総合福祉会館 2階多目的ホール
前橋市日吉町二丁目 17-10
電話 027-237-0101

定員：300名（定員になり次第締め切り）
参加費：1,000円（当日受付でお支払ください）

講師：^{すわ}諏訪 さゆり 氏

講師紹介：現在の認知症ケアに携わる者なら知らない人は、いない認知症介護東京センターの研修部門のトップにいて約10年にわたり、われわれに「認知症ケアとは」何かを導いてくれた日本認知症ケア学会の第一人者です。現在は千葉大学大学院の訪問看護の教授ですが、訪問看護部門でも、今始まっている新オレンジプランの中で、常にケアとの連携を模索しながらの毎日とのことです。県内にも教え子は数百人を超えているはずです。

認知症ケア専門士の方
単位申請中



1部：地域での取り組み紹介 桐生市認知症初期集中支援チーム

講演概要：認知症初期集中支援チームの役割、事例を含めた活動内容と課題。

2部：講演会「地域における訪問看護とケアの連携の在り方」

講演概要：現在の超高齢社会において、認知症高齢者を「地域の中でどう支えるか」ということがテーマとなっている。その中で訪問看護の位置づけや役割が注目されている。認知症や困りごとを抱えながら、地域の中で生活する方の尊厳をどのように守っていくのか。その為には一人ひとりをどう捉え、どのように接するかに尽きるのではないかと。介護保険が目指す尊厳あるケアとは、「新オレンジプラン」を踏まえて訪問看護とケアの在り方について学ぶ。

3部：事例検討『ゴミ屋敷に住むA様の思いとは』 ナーシングホームあい 扇田 孝之

事例概要: 58歳まで小学校教諭として勤め上げ、早期退職したA氏。年金生活で暮らしていたが、ある日、地区の包括支援センターへ問い合わせがあり訪問。いわゆる「ゴミ屋敷」の状況を確認する。本人からも異臭を放っており、健康的な生活を送っているとは言えない状況。本人は困っている様子はなく「なぜうちに勝手に来るの?」と警戒する。ゴミを捨てないでいる本人の思いを含め、介入困難なケースを検討する。

申込み FAX.027-251-5511 事務局携帯番号 080-2078-9492

申込み方法 ◎必要事項を記入し、FAXまたはメール (ninchicare@gmail.com) でお申込みください。定員を超えた場合のみご連絡をいたします。

氏名	連絡先	住所